

JBA OFFICIAL BASKETBALL RULES 2020 EXPERIENCE RULES vol.6

ルールエクササイズ vol.6
(2020年10月15日配信)

【B級・A級・S級審判ライセンス、3級・2級・1級・T級審判インストラクターライセンスの皆さま】

新型コロナウイルスの影響により、本年度のライセンス更新に係るルールテストは従来の形では実施いたしません。
ルールテストの代わりに本ルールエクササイズを配信いたしますので、ぜひ競技規則や問題集を閉じてトライしてみてください。



QUESTION 26

A1が出血し、スコアラーはそのプレーヤーに対する交代の合図を行なった。
その直後にチームAはタイムアウトを請求し、認められた。A1にはタイムアウト中に止血の処置が施され、
出血は完全に止まったので、A1はタイムアウト後にコート上で引き続きプレーを行うことができる。(○/×)

QUESTION 27

ショットクロック残り6秒でA1がショットを放った。リングに触れたボールは大きく弾み、
バックコートでA2がそのボールをキャッチした。バックコートでA2がドリブルを始めようとしたところ、
B1がA2に触れ合いを起し、パーソナルファウルを宣せられた。これはチームBのこのクォーター3個目の
チームファウルであった。ゲームはチームAのバックコートからのスローインによって再開され、
ショットクロックは14秒となる。(○/×)

QUESTION 28

第3クォーターで、チームメイト同士の言い争いから交代要員のA6がA7を拳で殴った。
審判はディスクォリファイングファウルを宣し、A6を失格・退場とした。このディスクォリファイングファウルは
チームAのヘッドコーチのテクニカルファウルとして「B2」と記録される。(○/×)

QUESTION 29

B1はドリブル中のA1に触れ合いを起し、パーソナルファウルを宣せられた。これはチームBのこのクォーター
4個目のチームファウルであったが、審判は誤ってA1に2本のフリースローを与えた。最後のフリースローが
成功したあと、ゲームクロックが動き出し、B2が得点した。スローインのためにA2がエンドラインでボールを
持ったとき、審判が誤りに気がついてゲームを止めた。誤って与えられたA1のフリースローの得点は取り消され、
ゲームはエンドラインからチームAのスローインで再開される。(○/×)

QUESTION 30

A1はツーポイントフィールドゴールエリアからのショットの動作中にB1にファウルをされた。
A1が最初のフリースローを打ったあと、A2がテクニカルファウルを宣せられた。
A2のテクニカルファウルによるフリースローがチームBに与えられたあと、
最初のファウルの2本目のフリースローがA1に与えられる。(○/×)

今回のルールエクササイズの解答と解説は、【ルールエクササイズ vol.7】(2020年11月15日配信予定)とともに配信いたします。

JBA公式ホームページでは、競技規則、JBAプレーコーリング・ガイドライン、ルールテスト問題集などをご確認いただけます。

<http://www.japanbasketball.jp/referee/>